

西田 尚樹

富山大学大学院医学薬学研究部法医学講座 教授

高齢者の自殺剖検例における神経病理学的解析

申請者の所属教室にて剖検された 83 例の 50 才以上の高齢者自殺例に、免疫組織染色をはじめとした病理組織学的解析を行ったところ、約 60%に有意と考えられる神経病理学的変化が認められ、器質的神経変性疾患を背景とする気分障害が自殺の発生病因の一つとなっている可能性が示された。これらの症例の大半は、死亡前に認知症、運動機能障害が家族、医療機関に認知されいなかったことから、高齢者の気分障害に関しては、認知機能や運動機能の評価を早期に施行することにより、その器質的背景因子が検出し得る可能性が考えられた。また自殺者の剖検を担う法医学分野から、臨床的、社会医学的に自殺予防に資する研究が施行可能であると考えられ、今後より検証を進めるべきであると考えられた。